



マナビィつうしん

平成30年10月12日(金)

ご存知でしたか (改めてマナビィとは?)

現在では、生涯学習、社会教育のマスコットとして定着している「マナビィ」。今回はこの「マナビィ」について改めて説明し、生涯学習、社会教育について考えたいと思います。

【「マナビィ」の作者は?】

仮面ライダーやサイボーグ009などで有名な漫画家の

石ノ森章太郎氏がデザインをされました。

【「マナビィ」の名称の由来は?】

生涯学習の「学び」とミツバチを意味する英単語 bee をかけて「マナビィ」としたそうです。

【触角が3本なのはなぜ?】

ミツバチの触角は2本のはずですが、漢字の「学」の「ツ」の部分からの連想で3本とされました。



【マナビィが抱えるツボの中には何が入っているのか?】

ミツバチだから「ハチミツ」だと考えがちですが、実は**知恵の糧「マナ」**が入っているのです。「マナ」はヘブライ語が起源で英語では manna。この食べ物は、旧約聖書の中でイスラエルの民が神から与えられた甘い味のパンかせんべいのような食べ物で、人々は「これは何だろう」という意味で、「マナ」と呼びました。

生涯学習の「学び」の意味の「マナビィ」という名前と3本の触角。「これは何だろう」と問いをもち、知恵の糧をたくさんツボに入れている「マナビィ」は、私たちに生涯学習の大切さ、問いをもって学び続けることの大切さを伝えているように思います。

コミュニティスクール Q&A

Q

3

信州型コミュニティスクールには、どんな成果がありますか?

信州型コミュニティスクールの成果については、文化財・生涯学習課から次のような成果があったと報告されています(プログラムガイド集NO15から)。

(次ページへ)

1 地域の方が学校に足を運びやすくなった

→「コミュニティスクールだと学校に行きやすい」という声が多くなっています。

2 子ども・先生・地域の方、お互いがよい影響を受ける

→子どもは多くの大人と触れ合うことで、先生は地域の方と触れ合うことで、地域の方は子どもや先生と触れ合うことで多様な学びが生まれます。そして、心が通い合うぬくもりを実感します。

3 さらに子どもの成長・変化が見えてきた

→「地域の方にお世話になっているのだから、何か自分たちにもできないかな」と願い、行動する子どもたちが増えてきました。他者のために動く主体性や行動力、相手意識、コミュニケーション力が育ってきました。

4 地域が元気に

→「子どもと一緒にいることで元気になる」「雪かきをしてくれた子がいて感動。子どもたちを自分の家族だと思っています」・・・子どもの姿に感動し、地域の方も学ぶ意欲や元気がでてきます。

また、中信地区においてコミュニティスクールにかかわる皆さんからも、次のような成果が寄せられています。（中信地区学校支援コーディネーター等研修会から）

1 運営委員会が充実してきている

→この地域の子どものをどんな子どもに育てたいのかを地域と学校と一緒に考え、それをランドデザインに位置付けている。

→「子どもたちが道路で遊んでいる」といった生徒指導に関することも運営委員会で協議し、地域に持ち帰って各種組織で情報を共有している。

→支援内容や活動内容を学校と公民館の双方が提案し合っているため、双方向できっかけが生まれ、活動が充実、発展している。

2 中学生が地域を応援するスタイル（地域貢献型）の取組が、増えてきている

→中学生が、地域の草刈りを行ったり、地区の行事の企画運営に参加したりするなど、地域貢献型の取組をする学校が増えてきている。

3 コミュニティスクールが、若い先生の体験の充実につながっている

→農作業をほとんどしたことがない若い先生、虫にほとんど触ったことがない若い先生にとっては、CSで子どもたちと共に外部講師等から学ぶことは貴重な体験の場になっている。